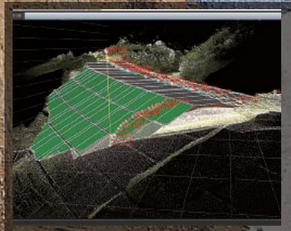
07

実績を生かし、先進的な取り組みに挑む

i-Construction に取り組む多伎・朝山道路小田地区改良第１２工事の現場。国土交通省から視察に訪れるなど注目を浴びている。

県下でトップクラスの実績を誇る総合建設業の《カナツ技建工業株式会社》。土木、建築、住宅事業に加え、水処理事業も手掛け、自治体などからの信頼も厚い。一方で、従来の枠にとどまらず積極的に先進的な取り組みに挑んでおり、日々進化を遂げている。「お客様の要望通りに完成させるのは当然。更に、相手の思いを汲み取った仕事を行うことで感動や笑顔を生んでいきたい」。金津式彦・経営統括室取締役（42）は力を込める。

出雲市で山陰道の盛り土工事を行っている現場（多伎・朝山道路小田地区改良第12工事）では、ICT技術（情報通信技術）を全面的に活用した《i-Construction》の取り組みを実施。全国で2番目の先駆的な事業だ。コンサルタント、ソフトメーカー、測量会社とプロジェクトチームを組み、3次元データを有効に活用した工事を進めている。土木部作業所長で、現場を管理する三澤季さん（42）は、「ブルドーザーなどの重機の動きや施工の状況をリアルタイム、オンラインで確認でき、指示できる。スピードも精度も安全性も格段に上がりましたよ」と現場事務所に掲げられた大型モニターを見ながら説明してくれた。モニターに映るのは、車で約10分の施工現場。マウスのクリック一つで工事の進捗状況や現場の様子などを見ることができ、重機の操縦者に指示することもできる。



３次元設計データ

品質、安全性、スピードが飛躍的に向上

キツい、汚い、危険――３Kの代表的職業と言われてきた建設業。しかし今やその影はない。多伎の現場では、レーザースキャナーとUAV（無人航空機）で３D測量。取得したデータを点群処理ソフトに入れて3次元データを作成するまでわずか3日ほどだった。巻きRやレベル、トータルステーションなどを用いた従来の計測に比べ、4分の1程度の早さだという。

ブルドーザーや振動ローラーにはGPS付きのマシンコントロールを設置し、共有する3次元データ通りに自動制御する。「今までは、両手でレバーを握って、盛り土の高さを確認しながら操縦していたので熟練者にしかできない非常に気を遣う作業でした。これなら経験の浅い若手にも任せられる上、盛った土の量や振動ローラーが締め固めた回数もリアルに分かるのです」と三澤さん。「初めての試みで多少の戸惑いはありましたが、確実に品質向上につながっている実感があります」。

大型モニタを使用した打合せ風景

誰もがスポットライトを浴びる現場に

入社以来20年以上、土木一筋の三澤さん。多くの人と関わり、力を得て、難しい現場もこなし、一つ一つのものを造り上げてきた。「関わっているすべての人がスポットライトを浴びることができる現場を目指したい」と話す。金津取締役も「とかく『カナツが建てた』と言われがちですが、多くの作業員さん、協力会社さん、地元の方々など皆さんの存在があってこそ出来上がるものですから」と確言する。

女性パトロール

経営統括室の主催で、昨年初めて実施されたユニークな試みがある。女性社員による施工現場の“パトロール”。「現場事務所の流し台が汚い」「仮設トイレで音が聞こえないよう工夫してほしい」など土木担当の男性社員が気付きにくい指摘が相次いだ。「今後は女性技術者も増えてほしい。彼女らが働きやすい環境作りは不可欠です」と金津取締役。今夏からは女性だけの社内委員会を立ち上げ、社員満足や顧客満足の向上に取り組んでいる。

お客様に寄り添った家づくりを

そんな女性の一人、住宅の新築やリフォームを手掛ける住まいる部の主任、森脇真理さん（37）は、短時間勤務制度などを活用し、2人の子供を育てながら好きな仕事を続けてきた。「同僚の理解と家族の支援のおかげです」と笑顔を見せる。住宅作りのスタートは、顧客との会話。具体的なニーズを引き出す一方で、生活スタイルや家族構成に合った積極的な提案も行う。トイレが一番奥にあった住居のリフォームでは、施主からの要望はなかったものの、設置場所の変更を勧めて、とても喜ばれたという。「お客様によって大事にしたい所が違う。会話を重ね、それぞれの家族にとって暮らしやすい、納得した家を提案していきたい」。

現在、積極的に推し進めているのが天然素材にこだわった《無添加住宅》。屋根は天然石、断熱材は炭化コルク、漆喰の壁に無垢材のフローリング、接着剤は米のりを使うという徹底ぶりだ。環境や体に優しい上、値段も数年前に比べてかなり下がったという。業界で初めて《シックハウス保障》が

＊お客様の感動や笑顔を生み出す仕事を通じて、人そして地域の未来を創っていきます。

●創業	1938年6月11日	〒690-8550
●代表者	代表取締役社長　金津 任紀	島根県松江市春日町636番地
●社員数	215名（男205名、女10名）	TEL／0852-25-5555
●資料請求	有	http://www.kanatsu.co.jp/
●インターンシップ	有	
●企業見学	有	

（詳しくは総務部まで）採用情報はホームページをご覧ください。

カナツ技建工業 株式会社

総合建設業／総合水処理事業

ついているのも特長だ。「長年安心して住める家づくりに携われ、やりがいもあります」と話す。

マンション・リノベーション事業にも挑戦

今年、全国で主にマンションのリノベーション事業を展開する《リノべる》（東京都渋谷区）のエリアパートナーとなり、広島で事業展開を始めた。

「時代のニーズを捉えて急成長を遂げてきたベンチャー企業とパートナーになり、うちが得られるものも多い。《リノべる》のエッセンスを他の事業にも生かしたい」と金津取締役。長年培った老舗企業としての経験と、新たな挑戦との融合が、会社の幅をさらに広げ、厚みも生む。

果敢に挑戦する一方で、人材育成にも力を入れる。行動基準の毎朝の唱和や、階層別研修の内容を充実させるなどの取組みを行っている。また、建設業には業務を進める上で不可欠な資格も多く、取得補助金制度などで積極的に取得を支援。同時に、経験に応じて会社が社員に求める知識や資格などを明確化した《キャリア・プラン》を提示し、自己研鑽を促す。一人一人の社員の力が上がることは、顧客の満足につながるからだ。

大手とタッグを組んで山陰初の消化ガス発電事業にトライ

《カナツ技建工業株式会社》は従来から、多数の下水道処理施設や農業・漁業集落排水施設の建設、維持管理にも力を入れ、環境分野に強みを持つ。その実績を生かして、汚泥処理に精通する東京の大手企業、《月島機械》とタッグを組み、山陰で初めて下水処理場での消化ガス発電事業を行うことになった。汚泥処理の過程で発生する消化ガスは、メタンを主成分とする可燃性ガス。これを活用して発電し、電力会社にも売電するという事業だ。来年発電所の建設が始まり、２０１８年に発電開始予定。環境営業部グループマネージャーの田中充さん（43）は「大手企業と一緒に仕事をすることで、非常に勉強になった。環境事業は奥深い。他社とタイアップすることで事業展開の幅も広がり、会社の力も、より上がっていくと思う」と力を込める。

地域を変える環境事業

今、力を入れているのが、油脂分を含む排水処理に効果が高い《オイルバクターシステム》の営業。バイオの力で油脂を分解、汚泥を激減させる夢のようなシステムだ。「ずっと汚泥と向き合ってきた人間にとっては奇跡のような感じです」と田中さん。大阪に本社がある総合建設会社と共同で進め、県外の食品工場に声を掛けて回っている。「僕らの業務は決してきれいな仕事じゃないし、地域生活に密着しているため気も抜けない。でも排水施設が出来て川に鮭が上がってきたとか、シジミが戻ったという話を聞くとやってきて良かったなあって実感しますよ」。

コミュニケーションを生かした現場

もう一つ、《カナツ技建工業株式会社》の大きな柱がある。建築事業だ。県内を中心に地方自治体の庁舎や民間のビル、福祉・教育施設など実績を挙げだすとキリがない。現在建設中の松江市立病院がんセンターも、他2社とのＪＶ（共同企業体）で取り組んでいる。現場で施工管理する川上球司さん（35）は、設計図や施工図とにらめっこしながら、作業性と安全性を第一に指示にあたる。作業現場の真横には市立病院があり、常時多くの患者や見舞客らが通行。「すごい気を遣いますよ」と川上さん。病院に来院する一般車両の動線を考慮して、当初計画していた生コン車の出入り口を変更するなど、状況によって適切な対応を考えてきた。

総事業費30億円以上、建設費だけでも約23億円という大規模な工事は川上さんが関わってきた事業の中で一番大きい。「どんな規模でもやることは同じです。でも現場が大きいとそれなりの苦労もあります……」と苦笑する。建築物を建てる際には、法律などに基づいて数多くの基準があり、届け出や申請書の数も種類も半端ではない。さらに関わる人間の数も多い。さまざまな業種のさまざまな性格の職人らがスムーズに仕事できるよう、配慮するのも川上さんの仕事だ。「コミュニケーションは大事です。自分より年配の方も多いですが、『アイツが言ってるなら頑張らないけん』という気持ちになってもらえるよう頑張っています」。

物を作り上げる醍醐味

医療施設の建設ゆえに苦労したこともある。放射線治療室の壁は1・5メートル以上という通常よりかなりの厚みを必要とし、仮設工事にも頭を悩ました。「柱1本立てるためだけに足場を組む必要があったり、作業の手順を入れ替えたり、とにかく大変でした」。仮設工事は、川上さんに任されている重要な業務の一つ。作業をスムーズに行うために一時的な施設や設備を設ける工事で、建設現場では必要不可欠なものだ。足場シートの設置一つにも基準があり、神経を遣う。「何もないところから物が出来上がっていく醍醐味は建築ならではのもの。どんなに苦労しても完成して喜んでもらえれば、充実感にあふれます」。

コーポレートスローガンは「創ります！感動・笑顔・人・未来」。老舗の建設業者としてのプライドと経験を持ち、地域に根差した経営。さらに、地力を生かして次々に新境地を切り拓く挑戦する姿勢。《カナツ技建工業株式会社》が創る未来は、人を、地域を笑顔に変える。

07

建築部　主任　川上さん

現在（２０１６年１１月取材時）は、松江市立病院がんセンターの施工管理を担う。作業現場は稼働中の病院敷地内ということもあり、工事車両の動線や、来院する方々への配慮など様々な工夫をこらしている。

環境営業部　グループマネージャー　田中さん

従来から行っていた下水処理施設や農業・漁業集落排水施設の建設や維持管理の事業に加え、汚泥処理の過程で発生する可燃性ガスを利用した発電事業のスタートにも取り組んでいる。

山陰初の放射線治療機械が導入される松江市立病院がんセンターの工事現場。

カナツ技建工業が維持管理を受託している宍道湖東部浄化センター内に建設される消化ガス発電所の完成イメージ。

住まいる部　主任　森脇さん

天然素材にこだわった新築住宅『無添加住宅』を始めとし、リフォームなども手がける「住まいる部」。お客様の生活スタイルや家族構成などに適した総合的な提案力が問われる。

土木部　作業所長　三澤さん

現在（２０１６年１１月取材時）は、出雲市で山陰道の盛土工事を行う現場を管理。中国地方管内初の情報化を前提とした新基準「i-Construction」を導入した現場で、ＩＣＴ建設機械を自動制御して工事を進めている。

広島の舟入で中古マンションの一室をリノベーションした「リノべる。広島」のショールーム。

三澤さんが担当した国道５４号線里熊大橋床版工事は、国土交通省中国地方整備局の局長表彰を受彰した。